

1. 水 産 資 源 調 査

I. 調 査 目 的

沿岸漁業の対象となる，重要浮魚資源の現状を評価し，その変動機構を解明するとともに，漁業生産の合理的体系を明らかにし，漁海況予報事業の精度を高めるため生物学的情報を把握し，わが国200海里水域内資源調査の資料を蓄積する。

II. 調 査 内 容

1. 調 査 期 間 昭和54年4月～同年12月
2. 調 査 場 所 鯉ヶ沢町，青森市後潟
3. 担 当 者 主任研究員 沢 田 兼 造，部長 斎 藤 重 男
4. 調査項目及び方法

(1) 調査項目

- A. 漁 況 スルメイカ（鯉ヶ沢）イワシ類，アジ，サバ，スルメイカ（後潟）についての資料を集める。
- B. 多項目調査 体長，体重，性別，生殖腺重量，肥満度，胃内容重量および種類，年令，パンチング調査を行なう。

- (2) 調査方法 沿岸重要資源委託調査要綱（日本海区水産研究所，東北区水産研究所）に基づいて行なった。試料は青森市後潟の小型定置網（標本船）で漁獲した調査対象魚種について，パンチング調査を行なった後，多項目調査分は3～5%ホルマリン液で固定したものをを用いた。

III. 調 査 結 果

1. 漁 況 （54年1月～10月県統計）

- (1) マ イ ワ シ 101.165 トンで昨年同期の（109.838 トン）92%
- (2) ウ ル メ イ ワ シ 昭和36年ピークとして漸減状態にあり，本年は1,327 kg（昨年は，皆無であった。）漁獲されている。
- (3) カ タ ク チ イ ワ シ 513 トンで昨年同期の（1,874 トン）27.3%であった。
- (4) マ ア ジ 7.2 トンで昨年同期（14.5 トン）の49.6%であった。
- (5) ス ル メ イ カ 43,293 トンで昨年同期（58,641 トン）の73.8%であった。
- (6) マ サ バ 58,788 トンで昨年同期（214,219 トン）の27.4%であった。

2. 魚 体 調 査

(1) マイワシ(後潟)

- A. 体 長 6.5～23.5 cmの範囲に分布し、モードは6月の18.0 cmが最大で、9月・12月の6.5 cm最小
- B. 体 重 5 g以下～165 gの範囲に分布
- C. 肥満度 5.5～34.5の範囲に分布
- D. 生殖腺 5月～6月下旬までは、平均1 g以上のものが出現し、最高は雄の6.5 gで、7月以降は0.1 g以下の個体が出現している。
- E. 年 令 5月～7月上旬までは2～3才魚が出現し、7月中旬から0～1才魚が出現している。

(2) カタクチイワシ(後潟)

- A. 体 長 6～16 cmの範囲に分布し、モードは5月と7月の12.5 cm最大で、11月の8.0 cmが最小
- B. 体 重 4～90 gの範囲に分布
- C. 肥満度 7～22.5の範囲に分布
- D. 年 令 5月～7月下旬までは2才魚の個体が多く出現し、11月以降は、1才魚の個体だけであった。

(3) マ ア ジ

- A. 尾又長 多項目調査は7月下旬に1回行なっただけで、尾又長分布巾は5.3～9.1 cmであった。
- B. 体 重 2～9 gの範囲に分布。
- C. 肥満度 11.0～14.0の範囲に分布
- D. 生殖腺 幼魚のため生殖腺が認められず、雌雄不明であった。

(4) スルメイカ(後潟)

- A. 外套長 5～19 cmの範囲に分布し、5月中はモード10 cm以下の個体であったが、6月以降はモード11～14 cmの範囲で出現している。
- B. 体 重 4～140 gの範囲に分布
- C. 生殖腺 未熟群が主体で、1 g以下の個体が多かった。7月18日に雄3尾が半熟であった。
- D. 胃内容 胃内容物種類はイワシ、小魚を多く摂餌していた。

(5) マ サ バ

- A. 尾又長 9～28 cmの範囲に分布し、モードは7月の24 cmが最大で、8月の9 cmが最小。
- B. 体 重 10～250 gの範囲に分布
- C. 肥満度 8.0～14.5の範囲に分布
- D. 生殖腺 若令魚で雌雄不明であった。生殖腺については7月28日に調査した雄1尾が5.2 gであったほかは雌雄不明であった。

※ 詳細については「昭和54年度沿岸重要資源委託調査報告書」を参照ください。